

介護助手のすすめ



矢田きよ子^[やだ・きよこ]

介護老人保健施設いこいの森(三重県)

はじめに

私が介護助手として勤務するいこいの森は入所100名、通所100名の超強化型老健施設です。入所棟はADLレベル、認知症レベル、医療ニーズ等により3つのフロアに分かれており、「お一人お一人の利用者さんを大切に。そしてその方の立場に立ったベストの医療とオーダーメイドの介護を提供します」の施設理念のもと、多職種協働でご利用者の在宅復帰に取り組んでいます。

入職の経緯

私は介護助手として働く以前に、清掃職員としていこいの森で10年ほど働いていました。このときは朝7時から午後の2時までの間で実働6時間、週に5日の勤務でした。仕事はやりがいがあったのですが、病気療養のために退職することになり、その後しばらくは家でのだんびりと過ごしていました。

1年ほどで体調も安定し、「そろそろ無理のない範囲で仕事でも…」と考えていたときに、新聞の折り込みチラシでいこいの森での「介護助手」募集の案内を目にしました。以前と同じ働き方をする自信はなかったのですが、チラシには「1日3～4時間、週3日程度から」とあり、「このくらいの時間と日数であれば働けるか」と思い、説明会に参加することにしました。

説明会には20名ほどの人が参加していました。介護職と介護助手の業務の明確な線引きと、食事・入浴等の業務ごとの介護助手の具体的な業務内容、さらに働き方の具体例として、早朝・午前・午後・夕方の時間帯に応じた業務内容についての説明がありました。ご利用者の身体に触れる介助は一切ないこと、働く日数・時間もある程度個々の希望に合わせてもらえるということを聞きました。私は無理なく仕

事を続けられるよう、月・火・木・金曜の週4日、午後1時から4時までの3時間の勤務で希望を出しました。

説明会後に就職の希望をした人は私を含めて10名だったそうですが、個別面談を経て、最終的に5名が採用になりました。

業務内容

介護助手の業務内容には「ご利用者に直接触れる介助はしない」という前提があります。介護職が業務に入る前の事前準備や介助終了後の片づけ、清掃やシーツ交換等の周辺業務が主な内容となります。業務内容の一例を以下に示します。

・入浴衣類集め

ご利用者の入浴時の着替えを事前に集めて準備する仕事です。着替え一式をまとめてゴムで括っておきます。ご利用者によっては股引きが必要だったりタオルを2枚集めたり等の違いはありますが、ゴムについているネームタグにそういった情報が書いてあるので、それを確認しながら集めています。自分で衣服を選べることのできるご利用者とは、お話ししながら一緒に集めることもあります。

・浴室準備・清掃

入浴介助前の準備(お湯入れ・タオル準備・足マット敷き等)や入浴後の後片づけ(浴槽・脱衣場の清掃・入浴衣類返し)が主な内容です。

介護助手の導入以前は介護職がこれらの業務をしていましたが、私たちが請け負うことで、介護職は入浴介助の前後も利用者対応にあたることができるようになりました。

・食事準備

食事のときのお茶やおしぼりの準備、必要なご利用者へ自助具やエプロンを配る等の業務です。



浴室の清掃や清拭タオルの準備など。作業のなかには座ってできる仕事もあるので無理なく続けられます（左・中）。コップはとろみ調整用（右）。

嚥下状態によりお茶にとろみをつけるご利用者がいます。嚥下に関する業務は、ひとつ間違えると命にも関わる重要な業務ですが、間違えないようにコップととろみ調整剤を入れるスプーンが色分けされており、それぞれに量が記載されているため、確認しながら業務することで間違えることなく行えています。

これらの他にも

- ・水分補給の準備（とろみつけ含む）
- ・物品補充
- ・ポータブルトイレ洗浄
- ・清拭タオル巻き（オムツ交換用）

等さまざまな業務があります。どれも難しいものではなく業務を覚えるのも簡単です。ご利用者によって対応を変える必要のある業務については、一覧表や必要な場所への掲示等、確認しながらできるような工夫がされているので、入退所の多い老健施設であっても一人ひとりの情報を覚える必要がなく、安心して業務を行うことができます。

働いてみて感じること

私が介護助手としていこいの森で働き始めてから5年になります。入社当初は介護助手という呼び名も聞きなれず、どんな業務内容なのか、私のような高齢者でもできるのかといった不安がありました。

介護職が行う業務に付随する「周辺業務」のみなので、問題なく働くことができます。

仕事に慣れた頃に土曜日の勤務を増やし、週に5日の勤務となったので、いまでは仕事に行くことが生活の一部になっています。仕事である以上、穴をあけると介護職やご利用者に迷惑がかかってしまうので、体調管理には気をつけるようにしています。実際、仕事をせず家にいたときと比べると生活にメリハリが付き、心身ともに健康でいられるようになったと実感しています。

一緒に働く介護職は子どもや孫に近い年齢の方が多く、仕事の合間におしゃべりすることも楽しく、若さをもたらえるようで刺激になります。また、私自身も母親の介護をしているのですが、介護職のご利用者への声かけや接し方を見て、「こんな声かけをすれば上手に介助できるのか」と、母の介護に活かせることもあります。

この年齢になっても社会参加ができて、自分自身の介護予防にもなり、さらにはお給料までいただけることは、私にとってとてもありがたい環境です。これからも健康に気をつけて、元気に働ける限りこの仕事を続けていきたいと思っています。そして、元気なシニア世代が生き活きと活躍できる介護助手という仕事をもっと認知され、全国で増えていくことを願っています。